

■晩年における訓練（4/4）

私個人の意見を述べれば、サムエルはその在職中、長い年月にわたって活発に顕著な働きをしたが、引退してからイスラエルの民のためになした働きのほうが、より大きかったのではないかと思われる。彼の指導の下にあった時代には経験したこともないような困難に満ちた暗い日々を送っているイスラエルとその新しい王のために、彼は祈った。彼のささげた多くの祈りの効果を、だれが測り知ることができようか。神のことばである聖書には、簡潔にこう記されている。「モーセとアロンは主の祭司の中に、サムエルは御名を呼ぶ者の中にいた。彼らは主を呼び、主は彼らに答えられた」（詩篇 99:6）。神のお与えになったサムエルの墓碑銘の中に、サムエルの名が律法の賦与者モーセのようにとりなし手として記されようとは、だれが予想しえただろうか。

現下の問題に心を奪われることもなくなった神の族長たちは、新しい世代の人々が神の道を踏みはずさないように、とりなしの祈りをささげるゆとりを持つ。アブラハムはイサク、イシュマエル、ロトのために祈り、ヤコブは息子たちとその家族のために祈った（創世 48, 49 章）。モーセはイスラエルの民が牧者のない羊のような状態にならないように祈った（民数 27:15-17）。サムエルはイスラエルとサウルのために、エリシャはサマリヤのために祈った（Ⅱ列王 13:14-20）。長い年月の間、神と人ともに仕えた一老人が、暗いじめじめした牢獄の中で祈っていることばに耳を傾けてほしい。「こういうわけで、私はひざをかがめて、天上と地上で家族と呼ばれるすべてのものの名の元である父の前に祈ります。どうか父が、その栄光の豊かさに従い、御霊により、力をもって、あなたがたの内なる人を強くしてくださいように。こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでいてくださいますように」（エペソ 3:14-17）。彼はまた、こう言うことができた。「私は、あなたがたのことを思うごとに私の神に感謝し、あなたがたすべてのために祈るごとに、いつも喜びをもって祈り、あなたがたが、最初の日

から今日まで、福音を広めることにあずかって来たことを感謝しています。あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです」(ピリピ 1:3-6)。パウロが牢獄でささげた、当時のキリスト者たちのための、とりなしの祈りの数々その力を、だれが測り知ることができようか。パウロに限らず、神と人に対する第一線での奉仕から身を引いて、「私もまた、あなたがたのために祈るのをやめて主に罪を犯すことなど、とてもできない」と言う人の祈りの力を、だれが測り知ることができようか。

教えることにおいても同じである。聖書の記録からすると、サムエルは行政的な仕事にあまりにも忙殺されていたために、教えるために多くの時間をさいたりすることは、不可能であったと考えられる。祈ることと教えることの二つの機能は、全く異なったものである。サムエルは今ではもう民の指導者ではないので、祈り、教えることができた。イスラエルの歴史からすると、サムエルは、聖書を学ぶ青年たちを周囲に集め、彼らは巣立ってイスラエルの「預言者」となったと思われる(Ⅰサムエル 19:18-20)。「預言者の学校」はこうして始められた(Ⅱ列王 2:15、4:38、6:1 参照)。これは、サムエルの死後も数世紀にわたって、イスラエルの霊性と敬虔に永続的な影響を与えた。このようにサムエルは、公職から引退することにより、これまで得られなかった祈りと教育の絶好の機会に恵まれ、以前にもまして永続性のあるよきわざを、その民のために成し遂げたのである。

人生の日が傾き、体力も衰え、かつて自分のために開かれていた門戸が閉ざされ、慰めてくれる者も去り、一日の汗も重荷も他の人々に任せるようになるとき、いよいよ慈愛に満ちた温厚な老人になるように努め、経験は足りないけれどもこれからという息子や他人の手に責任をゆだね、新しい時代の要求に応じ、何にもまして他の人々のために祈り、主が老人のために備えてくださる新しい奉仕に努め励むことによって主に仕えることこそ、晩年を迎えた者の受けるべき訓練である。このような訓練を経てこそ、私たちは、私たちを最も必要とする人々にとってよきかおりとなり、よき励ましとなることができる。